

- 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会の検討内容のひとつである、指標種の生息環境の保全、再生及び創出に関して、有識者をはじめとする皆様からご意見・情報提供を頂くため、第2回目の生息環境検討部会を開催した。
- 生息環境検討部会は、越後平野における生物多様性を目指して、河川、潟池、水田、水路などの湿地、その周辺の里山、森林を含めた生態系ネットワーク形成を推進するため、指標種の生息環境の保全、再生及び創出に関する検討を行うことを目的とする。

【概要】

■開催日時

令和6年2月8日(木) 15:00～17:00

■議事

- (1) えちごエコネット推進協議会開催報告
- (2) 行動計画(2030)策定に向けた検討
- (3) 農業分野における具体的な取組
- (4) 福島潟周辺の自然環境活用の取組
- (5) その他

【行動計画策定に向けた検討について】

- ・**潟や川などの水辺環境と水田環境のセット**が生態系ネットワークの形成において重要である。今後の意見交換を通して、整理、議論し、仕組み作りを図れると良い。
- ・具体的な数値目標の設定は難しいという意見がある。今後も意見交換をしていけると良い。

【えちごエコネット生息環境における役割分担・関係性】

- ・それぞれの部局でビジョンが作られ、様々な事業が行われている。それら事業を共有し、既存の様々な事業と紐づけることにより、非常に有機的かつ効率良く進み、地域として統一感がある取組、戦略に結びつき、地域のブランディングに繋げることができるのではないかと。関わりなく動くと齟齬が生じる可能性がある。互いが互いを紹介し、連携、協力し合うと、相互にメリットがあるとご理解いただきたい。
- ・指標種である鳥類以外にも、昆虫類や動植物、水辺生物等、複合的なネットワークを考えていくことは非常に重要である。

【えちごエコネット福島潟周辺の生息環境に係る取組】

- ・**早出川地区のワンドの再生**のように具体的な事業が見えてくると、必要な取組のイメージが付きやすくなる。阿賀野川の蛇行している区間と、阿賀野川と早出川が合流する地点は、様々な地形ができる場所である。魚類をはじめとする様々な生き物にとって、福島潟と共に重要な場所になる。**農地側の方で魚類が行き交うように連携**を進めて頂きたい。
- ・**モニタリング調査の成果**も当部会の中で紹介してもらい、取組に対する効果を勉強していくと良い。阿賀野川河川事務所が先行している取組は、えちごエコネットの取組と結びついてきている。このような取組を今後も紹介していただきたい。国土交通省が河川整備事業を進め、ポテンシャルを提示できると、農地と連結した時、農地の方の水田生態系も非常に豊かになるから、足並み揃えていこうという、話の持って行き方ができる。

【今期のハクチョウ・オオヒシクイの動きについて】

- ・ハクチョウは通常は最大2万羽程度のところ、11月中～下旬にかけて2万5千羽が飛来しており、おそらく過去最大である。日本に飛来するオオヒシクイは約1万羽と言われており、新潟は多くて3千羽程度だが、今期はその多くが新潟、福島潟に過大集中しているようである。
- ・佐潟や福島潟等でそれぞれ増減があり、他の湖沼が減ると、他が増えるといった関係性が見てとれる。特定の1ヶ所が重要なのではなく、**複数の連続性のあるねぐらが関係**し合っていることが重要であると捉えてほしい。

【福島潟周辺の自然環境活用の取組ほか】

- ・付加価値をアピールできる場づくり、食をアピールするための調理師学校や料亭等との連携、トイレ等の活用しやすい環境づくりが重要である。
- ・**潟フェス2024**には、えちごエコネットの紹介パネルを展示する予定。そのほか大学、マルシェ、アウトドアや環境関係の店舗等、市民が集まる場でパネル展示を行うと良い。



生息環境検討部会の様子